

子育て情報の発信と支援は サイト更新と自然保育拡充を促進



小林市子議員

質問・・・

「信州やまほいく認定制度」を公立保育園に普及するのと、自然保育の特化型に認定されている「森のいえぼっち」の運営を支援する考えは。

教育長・・・子育て応援ブック「この指とくまれ」の冊子とサイトでは、保育環境の一元化で情報を満載し検索しやすくなった。子育て中や移住をお考えの方々に、富士見町の情報発信が役立っている。ぼっちについては、公立の保育園とそん色のない保育環境や運営を支援する考えがある。県と連絡を密に取り合い、要望に沿い、自然保育を町内の保育園にも広げ、活用を図る。

子ども課長・・・町長も県のサポート課と認可外保育園の安定運営について話を進めている。

■町の防災（減災）体制の再点検

質問・・・富士見町を縦断している系静構造線に沿う活断層による地震は

マグニチュード8と予想されている。

防災ガイドブックを活用した地域住民の自助・共助による避難体制の見直しが必要では。

町長・・・先ず町で本部を立ち上げ、区長、自主防災会、消防団、日赤奉仕団、富士見高原病院などの連携による協力的体制が現在あり、避難所へ誘導する自主防災会や消防団が、本部からの情報で指示をする避難訓練が重要であり、継続している。

質問・・・大災害では、本部職員も消防団やその他リーダーの方々も被災するので、地域住民も情報を共有し、近所で助け合う取り組みが課題ではないか。

防災危機管理係長・・・防災ガイドブックの見直しは5年を考えている。昨年から地区を回って自主防災会や住民と話し合い、地域ごとに違うリスクについて危機管理や防災意識を高める啓発に取り組んでいる。

「野外保育の実践」

■第5回議員勉強会 平成28年6月14日

「信州型自然保育について」をテーマに、富士見町で野外保育を実践している「森のいえぼっち」代表の松下妙子さんと主任保育士の名取あゆみさんから、選択肢が増えた町の子育てや保育の現状、昨年特化型の認定を受けたぼっちの保育理念や実践例、運営実態をレクチャーして頂いた。

まだ馴染が薄いこの取り組みを実践し、子どもたちの自主性を育てる野外保育の様子に、議員からは自分たちも子ども時代は親の働く傍で、野山を遊び場として育ったと言う話題も出て時代の変遷を学んだ。

ぼっちでは生きて行く知恵を学ぶ生活体験や自分を好き・自分は自分で良いんだと認める自己肯定感等を



「信州型自然保育について」説明する 松下妙子さん(中央)と、名取あゆみさん(左)、長野県企画部次世代サポート課 竹内延彦氏(右)

育むことを大切にしている。そのためには子どもひとりひとりの特性を受け入れた育ちの場、さらに親育ちも共に出来る場での直接体験を重要視していると言う。

続いて、県の企画部次世代サポート課 次世代育成推進幹である担当の竹内延彦氏からは、県の取り組みについて、資料を基に説明を頂いた。長野県は全国初の自然保育の認定制度を推進し、新しい子育てスタイルを県内外に発信して、移住定住の促進に力を入れている。

(小林 市子)